

平成 26 年度ノンポイント汚染研究委員会 総会 議事録

日時 : 2015/3/16 (月) 18:15~19:50
場所 : 金沢大学角間キャンパス A 会場 (101 教室)
参加者数 : 32 名

プログラム

1. 委員長挨拶 (18 時 15 分~18 時 20 分)
2. 特別講演 (18 時 20 分~19 時 00 分)
『窒素飽和現象と溪流水の水質』
川上智規先生 (富山県立大学・教授)
3. 総会 (19 時 00 分~19 時 50 分)
 - (1) 今年度の委員会活動報告、会計報告
 - (2) 来年度の委員会活動予定
 - (3) 環境省受託事業 (放射性物質環境動態の文献調査) に関する活動報告
 - (4) その他

総会議事概要

(1) 今年度の委員会活動報告、会計報告について

佐藤副幹事長より別紙のとおり今年度の委員会活動ならびに会計について報告し、各担当からは以下の内容の補足があった。結果、報告事項について承認を得た。

農地林地部会 (井上部会長) :

- ・ ワークショップについては学生らの評判もよいが、一方で参加者数が減少していることや固定化が進んでいることから、次の展開を考えていく必要がある。
- ・ 学会誌に文献レビューを投稿しているのは、水田のみである。1 回目の査読対応が終了し、投稿を行ったところ。

国際関係 :

- ・ 3 年に 1 回の ICUD が昨年 9 月にマレーシアにて開催された。(中島先生)
- ・ DIPCON は投稿された 29 件のうち、最大 15 件が WS&T で採用される。(市木先生)

(2) 来年度の委員会活動予定について

佐藤副幹事長より別紙のとおり今年度の委員会活動ならびに会計について報告し、各担当からは以下の内容の補足があった。結果、報告事項について承認を得た。

都市流域部会 (尾崎部会長) :

- ・ 都市流域部会でも原単位文献調査結果の整理を検討していきたい。

農地林地部会 (井上部会長) :

- ・ 他部会でも同様ではあるが、原単位 DB の更新を行っていきたい。

ワークショップ担当 (駒井先生) :

- ・ 山地で実施されることの多いワークショップだが、今回は大阪・兵庫県内を対象ということもあり、海も含めて検討中である。

国際関係：

- ・ DIPCON のアブストラクトは 3/16 が締切であるが、現地（ベルリン）時間 17 日 0 時なので、投稿される方は急ぐこと。（市木先生）
- ・ WET2015 が 8/5～6 にかけて日本大学で行われるので、積極的な発表をご検討いただきたい。（古米委員長）
- ・ ASPIRE が北京で 9/20～24 に開催される。また韓国にて International Conference Environmental Engineering が 10/28～30 にかけて行われるが、大韓環境工学会の会長らとの話し合いで、本学会との連携をもとにした日韓セッションの提案もあった。（古米委員長）

第 18 回日本水環境学会シンポジウムにおけるセッション運営：

第 18 回日本水環境学会シンポジウムにおけるセッション運営については、DIPCON との日程重複による参加者減が懸案であったが、会場で参加する方を聞いたところ合計 5 名であり、大幅な人数減は見込まれないと考えられた。

また会場から以下の意見が出された。

- ・ 閉鎖性水域とあるが、たくさんはできないだろうから対象を湖沼に絞ってはどうか。
- ・ 大学等の研究者がそこまで原単位に興味があるだろうか。
- ・ 文献整理を行っていく中でも、原単位というよりは、分布型モデルに活用できる要素という気もしている。また成果の行政利用については、研究者の関心も高いと考えられる。原単位を批判的に見つめ今後のよりよい活用方法を考えていく場になればよいのでは。

以上を踏まえ、第 18 回日本水環境学会シンポジウムにおいては研究委員会としてセッションの運営を行うとともに、内容について原案をベースに検討を進めていくことで合意した。

(3) 環境省受託事業（放射性物質環境動態の文献調査）に関する活動報告について

古米委員長より以下の通り報告があった。

- ・ 平成 24 年度はチェルノブイリ原発事故由来の文献調査が中心であったが、平成 25～26 年度にかけては福島原発由来の文献も出版されてきたため、それらのレビューを進めている。環境省から KANSO を経由して委員会に依頼されているものだが、水生生物への影響調査が中心課題となっている。
- ・ 環境省版としてまとめたレビューを、形式を変えて学会版としても整理している。ただし、Elsevier など主たる文献では著作権上引用できる図表が 2 枚までに限られており、その他は許可の得られたものから公開するようにする。
- ・ 来年度の受託有無は不明だが、委員会としては更新を続けていく。

(4) その他

古米委員長より以下の通り報告があった。

- ・ 国で水循環基本計画の策定が進められているが、学会からも情報発信をしておくことと内容に反映される可能性がある。学会としての意識を持って進めてもらいたい。

- ・ 昨年 12 月に第 8 次総量規制の諮問が行われた。ここで原単位を変えられないと委員会の成果が無駄になってしまう。現在、第 7 次のレビューが行われているが、その際に報告や論文をベースにするためには、情報が随時更新されていることが重要である。
- ・ 地球温暖化に対する適応計画の検討が進められており、2 月末に影響評価が公表された。ノンポイント現象の中で将来どんなことが起きるのかを伝える能力が必要であり、そのために必要な施策や研究を発信していくことが必要である。

－ 以上 －